

NPO 法人 かながわ外国人すまいサポートセンター



ニュースレター No.23

“すまセン”の窓口ではスタッフが6ヶ国語で相談を受け付けています。
 アパート探しの内見や契約後の問題発生など、必要に応じて通訳を派遣します。
 お気軽にお尋ねください。

ごあいさつ



秋の香り漂う季節になりました。

かながわ外国人すまいサポートセンターにはこの間も多くの相談が持ち込まれました。

リーマンショックの煽りによる債務、これに伴う家探し、労働問題、起業について、貸家、事故についてなど本来私たちが引きうけるべき事とは思えない様々な悩みや問題を抱える人たちが私たちを訪ねてきます。

その度、頼もしく私たちを支えて下さるのが専門家の方々です。特に、今年度からは青年司法書士協議会との連携により月2回、すまセンに司法書士を派遣していただき法的な事柄は勿論の事、交渉や話し合いなどにより問題解決をスムーズに進めて下さっています。

不動産業者団体や多文化共生、外国人支援団体、行政などとの連携に加えエキスパートたちとの連携が相談に来る方々への心の支えとなりより安定した穏やかな生活を手にするための一助となっていれば幸いです。

またこの夏は、横浜YMCAが事務局を務める“エイズ文化フォーラム”に参加することとなり、新たな学びと繋がりとなりました。

共に生きることは国籍や民族、文化、言葉などを超えたボーダーのない住民たちのためのまちづくりの精神に則るものと理解してきましたが、更に病気や感染症、障がいを持つ方々と共に生きる地域づくりだという事を改めて考える機会となりました。

それぞれ異なる私たち一人ひとりが互いに理解し尊重しあいそして認め合いながら生きられる街を目指し、すまセンはこれからも広く深い連携の下で活動を展開します。

かながわ外国人すまいサポートセンター 婁 安

平成 27 年度神奈川県グローバル人材支援制度



一年を通して実施します。
 今後の予定は、コチラ!!

住まいと生活の無料相談会

7月26日(日)、留学生と外国人のための相談会がかながわ国際ファンクラブで開かれました。予定されていた相談は7件でしたが、実際は6件の相談が持ち込まれました。

15時から始まり17時近くまで相談者が途切れることなく、司法書士、通訳、すまセンスタッフが丸となって相談者と向き合い、話し合いを続け、熱気ある雰囲気でした。この日の相談対応言語は5言語、相談内容も部屋探しは勿論のこと、雇用問題、社会保障問題、生活相談、就職相談と多岐に渡り、他県からいらした方もあり、限られた時間の中での確かなアドバイスをする難しさを感じたり、また司法書士の方々の専門的な知識に助けられたりで無事に終わる事が出来ました。これからもこのような相談会の為にもっと経験を積み重ねていく必要を感じました。

(W・K)

2015年	7月 26日(日)	15:00~17:00
	9月 4日(金)	10:00~16:00
	9月 27日(日)	15:00~17:00
	10月 25日(日)	15:00~17:00
	(※11月28日(土))	1000~1600
2016年	1月 31日(日)	15:00~17:00
	2月 27日(土)	15:00~17:00

会場：かながわ国際ファンクラブ KANAFAN STATION(横浜駅西口徒歩5分)
 TEL: 045-620-6940 <http://www.kanafan.com>

「AIDS文化フォーラムin横浜」初参加レポート

8/1（土）かながわ県民センターで開催された第22回AIDS文化フォーラムin横浜に初めて参加し、「外国人お断りの扉をひらいて」というテーマのワークショップを行いました。当日は一般の方以外にYMCAや宅建協会の関係者、司法書士、ボランティア、すまセンスタッフ合わせ23名の参加がありました。いわれなき偏見や差別を受けることがあるエイズ患者、障害者や外国人等、社会的弱者と言われる方々に対する理解を深め、ともに生きられる社会をつくるにはどうしたらよいか、参加者どうし活発に意見交換を行いました。後日、参加して下さった大学生の松井友紀さんがワークショップの感想を寄稿してくれましたので下記に紹介させていただきます。（N. I）

「外国人お断りの扉を開いて…」

横浜市立大学国際総合科学部国際総合科学科
3年 松井友紀

8月8日、NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンターの方々による「外国人おことわりの扉を開いて」というプログラムに参加させていただきました。数あるプログラムの中で、こちらに参加させていただいたのは、大学で「多文化共生」に関心を持ち、学んでいるからです。

「外国人ってどんなひと？」という問いに対して様々な意見が挙げられていました。肌の色、目の色、母語が違う人、ダブル、日本の文化になじみ切れていない人、、、。また「多様性とは？」という問いに対しては、難しい質問だ、という意見が多かったように思います。「違う文化や人を理解して、受け入れることだ」との意見もありましたが、「受け入れる」という言い方自体にもマジョリティからマイノリティに向けられた眼差しがあるのではないかなと感じました。多様性を国籍だったり、性（LGBTIA,etc）だったりして線引きする必要のあるのは制度に当てはめなければならないときだと思います。お話の中であった、家を借りる契約をするときもそうです。しかし、同じ地域に暮らす「住民」としてともに生きるうえで外国人であることはさほど重要なことではないと思います。人と人との1対1の関係を成り立たせるうえで重要なのはその違いではないはずだと思います。外国人だからという理由だけで、はなから突き放される、断られることほど辛いことはないと思います。自分ではどうすることも出来ない部分が差別の対象にされているからです。

外国人問題は1980年頃までは主に韓国・朝鮮人、中国人のことでしたが、現在はブラジルやペルーなど多様化しています。外国人が日本にやってくる理由として、貧しいために出稼ぎに来ているというイメージがまだ持ち続けられている部分があると思います。今日において、逆に日本が彼らを必要としているのだということ



知らなければなりません。「住民」として共に生きる認識を変えていかなければなりません。

また、日本は文化的に様々な国の文化を受け入れながら生きてきたにもかかわらず、人の受け入れにおいてはまだまだ遅れています。アジアの先進国で1976年のベトナム戦争後、多くのポートビープルが諸外国へ移民しましたが、日本は受け入れなかった為、世界から非難を浴びました。移民受け入れ国として、様々な制度を設け、型にはまらない外国人は排除してしまう仕組みに問題を感じました。

よくないことだと思いますが、自分の周りに困っている外国人がいて、ようやく外国人問題が他人事ではなく、可視化される面があると思います。私も、大学内にある金沢国際交流ラウンジで、外国にルーツを持つ子どもたちのための学習支援にボランティアとして参加させていただく機会があり、そこで日本に来たばかりで日本語もまだよくわからないのに日本の子どもたちが通う学校に通わなければならない、着いていけない子どもたちと出会いました。彼らがどれほど大変なのか、すべては到底理解できていないだろうけれど、その一端に触れたことで、より強く問題意識を持つようになったのは事実です。

私にとって、学習支援ボランティアがそうであったように、少しの機会、ちょっとした出会いがあるだけで、人の認識や意識は変えることができるものではないかと思っています。このAIDS文化フォーラム、そしてかながわ外国人すまいサポートセンターの方々によるプログラムもその機会のひとつであると思いました。

貴重なお話をありがとうございました。

参加者からの声・・・

駒沢大学 人文科学研究科 社会学科 修士課程 邢亦清

正直に言うと、私は外国人の住まいの問題について、考えたことはあまりなかったです。そして、私が勉強している福祉との関係も少ないと思いました。とりあえず、受けてみようという軽い気持ちで講座に参加しました。

初回の講座は、私にとっては、とてもいい刺激でした。部屋を探すのに困っている外国人の数の多さ、文化の違いで起こしたトラブル、そして、「部屋を探す」という表の裏に隠れているいろんな事情など、厳しい現実初めて気づきました。

講座の回数を重ねていくうちに、自分が勉強している専門との関係性の強さもわかってきました。特に、第三回目のワークショップで、たくさんの方のことを勉強しました。生活保護、医療保険、年金、DVなど、日本に暮らしている全ての人の問題です。外国人の住まいに関して、これから、福祉に関する専門家も必要になってくるとわかりました。

最後に、この講座を通して、講師の裴さんの一言がずっと私の中に響いています。

「技術や知識は大事だけど、その前にハートです。」

福祉の勉強やこの講座に参加する時の初心を思い出せました。本当にありがとうございました。



多文化相談ボランティア養成講座 大盛況!!

今回の内容は...

- 5月23日(土) 入門編
「多文化って?外国人って誰?」
- 6月6日(土) 初級編Ⅰ ☆
「災害時における外国に
つながる人たちの状況」
- 6月27日(土) 初級編Ⅱ
「すまセンの事業と外国に
つながる人々を取り巻く状況」
- 7月11日(土) 初級編Ⅲ
「多文化相談ワークショップ」
- 7月25日(土) 初級編Ⅳ ☆
「フィールドワーク“モスク見学”」

☆



★★



「外国人とはどういう人でしょう?」漠然とした問いから始まった講座第1日目。実に世界各地の多種多様な国々から、複雑な現状を抱えた人々が私と同じこの社会に生きている現実。参加者からの体験を交えた様々な意見からも、単なる「日本国籍の有無」だけでは語れない現実が明らかになっていくにつれ、本当に自分が理解していることは一部でしかなく、自分には分からない/知らない部分がたくさんあることを痛感しました。

とにかく物事を同じ視点から同じように理解する人々に囲まれていると、限られた自己流の理解/解釈に陥りがちです。その一部の理解をもって全体を語ってしまうことの危うさも実感しました。さらに、それが支援となる時、如何にその自己流の解釈を抜け出して、支援を受ける側の視点を取り入れられるか、異なる角度からの視点で考えられるか、が問われているのだと思います。つきつめれば、自分が他者から学び続けられるかどうか、その姿勢自体を問われている、そう改めて感じさせられた一時でした。



特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン 村井 厚子

あなたも一緒に考えてみませんか?



Part 2

やました いくこ
有限会社 ヤマカプランニング 店長 山下 郁子さん



Q. ヤマカプランニングというお店の名前の由来は？

A. 粕谷社長のお父様が八百屋を営んでいた時、青物市場で使っていた屋号が（ヤマカ）だったので、それを残したかったことと、社長と私の二人で立ち上げたので、それぞれの名前から取って「ヤマカ」と名づけました。

Q. 家探しをお手伝いする上で、大切にしていることはなんですか？

A. 私はここ鶴ヶ峰で生まれ育ったため、鶴ヶ峰周辺の土地勘やライフラインの知識があります。近隣の学校や病院の場所などお客様のニーズに対応した地元の情報を提供することを大切に考えています。

昔、友人に付き添って東京の不動産店に行った時、その営業の方が池袋に住みたかった友人に、一方的に赤羽の物件を紹介したんです。その時の残念な印象を反面教師にして、自分是一对一でお客様の希望を丁寧にヒヤリングしながら、納得いただける家探しをしたいと思ったんです。

不動産業者に寄り付きにくいイメージを持つ方もいますが、そんなイメージを払拭（ふっしょく）していきたいですね。実際には情に厚い方や面倒見がいい方もとても多いです。私がこの業界に入った当時は完全に男社会でしたが、今日ではすまい選びの際に女性が決定権を持つことが多く、女性に寄り添える営業マン、よろず屋的存在でありたいと思っています。

Q. 大家さんやお客様とのやり取りで心がけていることはありますか？

A. すまい探しの際はお客様や大家さんとの人間関係が一番大切です。大家さんには法人としてもそうですが、まず個人として信頼していただけるように、「あなたが言うなら、しょうがないわね！」と言っていただける信頼関係を目指しています。

お客様とはゼロから始めることとなりますので、少なくとも3回はお話をし、その方のバックボーンを理解した上で家探しをするようにしています。特に難しいケースは面談回数を重ねることで、リラックスしてもらえるようにしています。社長に言われていることは「必ず一回はお客様を笑わせること！」。取り調べのような聞き出す接客ではなく、会話のな

かからニーズをキャッチするように心がけています。最近では病院や作業所、自立支援団体などから部屋探しを依頼されることもあるんです。そういう場合は入居する方に、生活上のルールを守ることを必ず約束してもらった上で、理解してくれる大家さんを探します。「イエローカードは3枚、レッドカードは退去ですよ。」ということもはっきりお伝えした上で、裏切らない人間関係づくりを心がけています。もちろん、その方が関わっている病院や勤め先の作業所など関連機関との連携も大切です。

Q. 入居後のサポートもされていると聞きました。どのようなことを、どのようなタイミングでされているのでしょうか？

A. ケースによりませんが、一ヶ月に一回家賃を持ってきていただく場合があります。元気かどうか、私が心配なんですね。来てもらって、世間話をしながら様子を見ています。コミュニケーションが普通に取れれば安心なんです。取れないときは病院に行くことを進めたり、通っている病院や作業所などに連絡を取ります。こちらは来ていただかないと会えないので、持ちつ持たれつの関係ですね。

Q. すまいサポートセンターに期待すること。

A. 外国籍のお客様は日本語を十分に話せない場合がありますよね。先日来店したペルー人の母娘もお母さんの代わりに娘さんが通訳していましたが、お母さんの本意を100%伝えきれていないように感じました。その点で言葉のサポートはとても大事だと思いますし、とても助かっています。

身寄りがない方などの場合、お客様のバックボーンや状況に関係機関と共有することはできないかなと感じています。個人情報保護の問題が絡んできますが、今後は相談を受けた際に得たお客様の情報を共有して、わかった上で部屋探しができればもっと選択肢が広がるような気がします。そのため書式やツールなど作れないかと思っています。また高齢で独り身の方もいらっしゃるの、入居された方を「どう見守っていくか」ということも今後の課題だと考えます。



相鉄線
 鶴ヶ峰駅から徒歩3分
 TEL 045(382)2516
 URL: <http://yamaka-p.co.jp>

こだわるのは“かゆいところに手が届く接客”
 近所のおせっかいなお姉さんでありたい！

2015年度 総会・第一回理事会 開催

2015年4月25日(土)横浜中央YMCA9階のチャペルにて、かながわ外国人すまいサポートセンターの2015年度総会が開かれ、昨年度の事業・会計報告、今年度の事業計画・予算案が承認されました。また、今まで長い間空席であった副理事長が新たに選任されました。

8月1日には第一回の理事会が開催され、4月から7月までの状況について意見交換が行われ、最近の傾向として、相談内容が多岐にわたりより複雑化していること、外国人のみならず日本人生活困窮者からの相談も増えていることなどが話し合われました。そこで「生活困窮者」の現状について理事会で学習を重ねていくこととしました。近年話題になっている「空き家」対策や新規会員の募集、会員への情報提供の仕方など取り組むべき課題も共有され、今後のすまセン事業の更なる発展に向けて協力しあうことを確認し、理事会を終えました。

<2015年度 新副理事長> 岡田日出則氏 山田達也氏

**ご協力・賛同いただき
ありがとうございます!**

< 2015年度 会費納入者 (2015年7月29日現在、順不同) >

◆**個人**◆友松 こずえ、裴 安、水田 秀子、邊 佳枝、長田 誠、竹口 秀夫
阿部 孝子、武田 利邦、高橋 修、金井 信高、稲村 厚、根本 壮太郎
山田 達也、本山 寛子、柳 晴実、棚田 雄三、加藤 一男、蓬萊 弘司
坂田 雅子、宇佐美 里香、山成 健治、松本 アルベルト、富田 恵子
森川 洋子、長澤 勲、北田 純一、黛 雅男、笠間 和歌子、横山 良一

◆**法人**◆(株)岡田ハウジング、(有)ラディアンワークス、徳永リアルエステート(株)
(有)セントラルホームズ、(有)東邦住宅社、(有)第一産業、(有)エスク、
(株)ダンリビング、(株)ハウスモリー、エスケーホーム(株)、(株)新栄託建、(株)昌栄、
(株)杉浦商事、湘南リビングセンター(株)、(株)山一商事、(公財)大和国际化協会、
(公社)横浜市福祉事業経営者会、神奈川青年司法書士会、(公社)神奈川県宅建協会川崎南支部

◆**賛助(個人)**◆小儀 晃、車 香順

新法人会員 紹介

今年度新たに2法人が法人会員に登録されました。

- ◆ 株式会社 山一商事
- ◆ 神奈川青年司法書士協議会

今後とも皆様のご期待に沿えるよう、頑張っていきたいと思っております!!

よろしく願いいたします!!

スタッフの ひとり言

私はすまセンでポルトガル語(葡語)とスペイン語(西語)の2か国語を担当している。両言語には優秀な専門スタッフも控えており、ブラジル人やペルー人たちのそれぞれの国語で話を聞いている。その中で、いわばスイッチヒッターになってしまった私には、自分史上の動機があった。50年前、会社員だった私は放課後、社の西語課外訓練を受けていた。当時、社は中南米でプラントを大量受注に成功、西語人材の育成が急がれていた。初歩からネイティブ講師に教わりつつ、石の上にも何年か経ち、そこそこには話せるようになったものの、それはあくまで「畳の上の水練」、実地訓練の場を求めていた私をある日、上司が呼んだ。「西語やってるんだって?」「はあ」「じゃ、ブラジルの合弁会社へ出向してくれ」「部長、ブラジルは葡語で、西語ではありません」「なに、似たようなもんだろ?」結局、命により、その似たような言語の国へ5年間派遣され、葡語漬になった。派遣先企業は同国から近隣諸国への輸出もあり、西語に無縁ではなく、忘れずに済んだのは幸い。この両語、フランス語、イタリア語などとともにラテン語方言に発しているから、相似た点はたしかに多い。幼い頃、私が育った京阪神地帯も同じ言語圏に属していても、言葉に細かい差があり、「大阪“さかい”に京“どすえ”」と表現された。「…やさかいな」の上方、優雅に「…どすえ」の京ことば。乱暴な表現を許されれば、葡・西語の差もそんな感じなのかなとも思う。両語の差を1~2実例を示そう。たとえば、123は西がuno ウーノ dos ドス tres トレス、葡がum ウン dois ドイス très トレース、私のような年寄りを表すのに、葡 velho ヴェーリヨ、西 viejo ビエホ、よく似ていると言え言えるし、若干違うといえば違いますかね。(MM)

会員入会・寄付のお願い

皆様のご理解、ご協力が「かながわ外国人すまいサポートセンター」の活動の力になります。会員となって私たちを支えていただければ幸いです。また、ご寄付も歓迎いたします。

正会員	年会費	賛助会員	年会費
(個人) 1口	5000円	(個人) 1口	3000円
(法人) 1口	10000円	(法人) 1口	10000円
(団体) 1口	100000円	(団体) 1口	10000円

*4月1日～翌年3月31日までの年会費です。

振込先 【郵便局】00270-5-39032
かながわ外国人すまいサポートセンター

*手数料はお客様のご負担となります。

相談窓口 & 対応言語



スタッフみんなでお待ちしてます!!!

	10:00~13:00	13:00~17:00
月	スペイン語、コリア語	スペイン語、コリア語
火	英語、スペイン語 (12:00~)	英語、スペイン語 (~16:00)
水	英語、中国語、コリア語	英語、中国語、コリア語、ポルトガル語
木	英語、スペイン語、コリア語	英語、スペイン語、コリア語
金	ポルトガル語、スペイン語	ポルトガル語、スペイン語、英語

◎月曜～金曜の午前10時～午後5時まで。
◎相談は、無料で受けております。
◎対応言語は日によって変わる事があります。
お電話でご確認ください。



翻訳・通訳サービスをご利用ください!!

すまセンでは一般の通訳、役所関係の書類やその他の翻訳を有料でお引き受けします。

ぜひ、ご利用ください!

*費用に関しては、お問い合わせください。

*その他の書類、言語に関してはお問い合わせください。



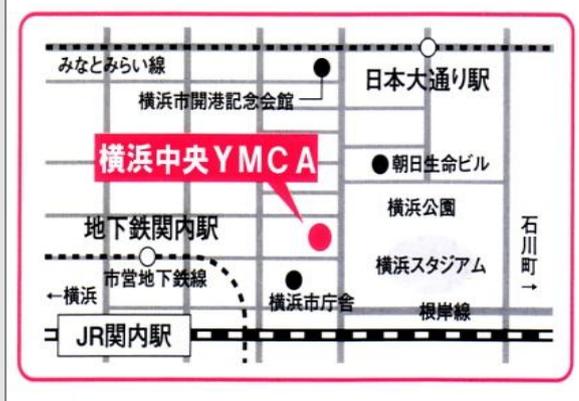
<翻訳可能な書類>

戸籍謄本 住民票 婚姻届・離婚届
出生届・死亡届 その他 など

<翻訳・通訳が可能な言語>

英語 スペイン語 中国語
コリア語 ポルトガル語 など

アクセス



JR根岸線 関内駅南口より徒歩 10分

市営地下鉄ブルーライン関内駅出口1番より徒歩 5分

みなとみらい線日本大通り駅より徒歩 5分

横浜スタジアム向かい 横浜中央YMCA 2階

TEL: (045)228-1752 Fax: (045)228-1768

URL: <http://www.sumasen.com/>

Mail: sumai.sc@sumasen.com

ホームページもぜひご覧ください!

編集後記

* 溶けるような暑さはあつという間に通りすぎ、肌寒さすら感じる季節になりました。今年ほど毎日の気温差に悩まされた夏は無かったように思います。

* 温度差というのは色んなところで感じるものです。仕事に打ち込む姿勢ばかり、家事や子育てに関わる姿勢ばかり。

* 先日もせっかくの休日に家のことは何もせず、ただ“読書(絵がメインの本です)”ばかりしているつれあいにイライラしている自分に気がきました。知らないうちに自分と同じ“温度”を人に求めてしまっている…と反省しながら、そんな時は一言やさしく?!「やってくれたらうれしいんだけどなあ♥」と声をかけようと自分に言い聞かせました。

* 温度差はあつて当たり前、気になることは言葉に出して伝えあおう、いろんな意味での“ちがひ”を知り合うことが多文化共生のための第一歩!ではないかなあ…と思うのです。(R・C)